

千一(せんはじめ)と 介護・福祉・バリアフリーを 考える会「会報」

Vol 4-No 3 2004年度



皆様の陰でお活動が
様のようなたたきま
ご出の来まいただ
ご協力い上げます!!
感謝申しあげます!!

千一が一般質問などで進めたもの

—2004年12月まで—

2004年も最後の月になってしまいました。心身共に世知辛さを感じる今日この頃ですが、緑の問題にもゴミの問題にも、石渡市長就任後はっきり方向性が発揮されました。今年は鎌倉においても台風の災害があり、また、新潟においては阪神以来の大きな災害に今も見舞われている状況です。では私の質問を行わせて頂きます。

1. 災害弱者について
2. 鎌倉市における災害弱者対策について
3. 学童保育の重度障害児の公的介助のその後の経過について
4. 市役所内または関係機関との横の連携を密に、総合窓口を
5. 八幡宮の扉の出入り口が鍵のかかった鉄製のものになったことについて
6. 青年期の身体障害者の、親からの精神的自立について
理事者におかれましては、この6項目について明確なご答弁をお願いいたします。

1. 災害弱者について

以前にも質問致しましたが、知的障害者、高齢で歩くことが困難な方、痴呆の方、移動するのが困難な障害者、生活上いつも介助が必要な方などは新潟の今回の震災の場合どのような現状なのかすごく心配になります。特にその中でもお一人暮らしの方などは報道でもそういうことはあまり知らされておられません。例えば、特別養護老人ホームや身体障害者養護施設の入所者等々について、



鎌倉市議会議員
千一 せん

はじめ

千一(せんはじめ)

鎌倉市佐助在住。市会議員。神奈川大学経済学部卒業。脳性麻痺により、手足、言語に障害を持つ。少し自由に動く左足でコミュニケーションをとる。「横浜市脳性麻痺者協会」副会長をつとめた。障害者のグループホームの運営に携わってきた。鎌倉の介護・福祉・バリアフリーの前進のために、只今、奮闘中!!

千一事務所

おつぎがやつ
〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷4-27-7
電話 0467 (61) 2031
FAX 0467 (61) 2032
E-mail sen1@violet.livedoor.com
http://www2.ocn.ne.jp/~sen1naka/

そのような方々は生きていくのに介助者が必要です。またその介助者も被害に遭われている方も多いためです。このような状況下でそのような災害弱者の今の生活状況をどのようにされているのか、把握できる範囲内で結構ですので具体的にお教えください。

そして、阪神淡路路の時と対応はどう変わってきたかもお教えください。明確なご答弁をお願い致します。

2. 鎌倉市における災害弱者対策について

「1番」に関連しますが、02年9月の定例会での災害弱者に関する質問で、そのとき、消防の方は、「ファイアヘルパー」と称し、従前、市のホームヘルパー派遣対象者で65歳以上の一人暮らしの方を対象に3ヶ月に1回、各家庭を訪問し、消防相談や火災予防の指導を行っている。「ファイアヘルパー対象者及び聴覚障害者のデータを消防緊急情報システムに入力し、災害時に消防隊等へ支援情報として提供し、活動を行っている。今後は災害弱者への対応については、現在の施策を継続しながら、地元消防団及び近隣住民からの情報提供を受け、人命を第一に消防活動を行っていきたい。」と回答されました。

まずは、災害時の特に独居のお年寄り・障害者の所在・安否確認から始まります。(電話が使えないことを前提におかなければならないでしょう。そのためには、足で確認しなければなりません)

昼と夜の生活はまったく違います。深沢地区などで、機能している「見守り、ネット」の活動などを、災害時に、実効的な形で、組み入れること、また昼間時の災害には、市内にいる職業人(電気・ガス・郵便・新聞など地域周りを主とする職業人)にこれらのサポート体制に入っていくことが、鍵だと思います。本当に、いつでも動ける、ファイアヘルパーこそ重要です。多くの市町村では、行動要領と訓練をしているようです。この、ファイアヘルパーの実際の構成と活動内容、及び、訓練等はどのようになっているのでしょうか。

そして、所在・安否確認ができたあとも、そこから問題がはじまります。災害では生きていたとしてもそれか

千一の方針

私は、20年以上前から全身性障害者という最も生産性のない立場で福祉活動を進めてきました。当事者としての横浜市当局などに福祉の充実、バリアフリーの充実等、あらゆるところで訴え続けてきました。横浜でのグループホームづくりに約5年もかかり完成させた経験もあります。

鎌倉に転居してきてはじめて気が付いたことは、全国的に有名な鎌倉であるにも関わらず、同じ道路でも、横浜から鎌倉市に入ってくる、歩道がガタガタになる場所があり、歩道があっても波をうっていたり、歩道と車道の段差があまりにもあるので、ベビーカーにも、歩行者にも、車いすにとっても、移動しにくいのが現実です。鎌倉市在住の方のみならず、観光客も来る所ですから、これは由々しき問題ではないでしょうか。更に、鎌倉市の福祉の水準は、東京から見て遊んでいる横浜市よりさらに落ちているのです。鎌倉のバリアフリー化を少しずつでも進めていき、鎌倉の福祉も着実に前進させていこうと思ひ、鎌倉市議選に立候補し、当選させていただきました。私のやろうとしていることは、大きな事ではありません。誰もからよっした気配りで、ちょっとした改善で、住みやすい鎌倉に、訪れやすい鎌倉にしていきたいと思うのです。そして、全国のバリアフリーや福祉の遅れている市町村も、それを発信し改善させていかなければなりません。それは、ハード面だけでなく、ソフト面(皆さんの心のあり方)の充実が不可欠なことであり、それによってハード面が改善されることも多くあると思います。是非とも、皆様方の御協力をお願い申し上げます。

会員募集中!!

鎌倉を住みやすい街にしていけるために、
「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」
の会員になってください。
会員(年)会費 1001円(千一円)
別添の郵便振替払込用紙を「入会申し込み書」とします。
住所、氏名、電話番号のほかに、「通信欄」を利用して、「E-mail Address」「携帯電話番号」をお書きいただければ幸いです。
*下記の郵便振替口座までお振込み下さい。
[口座№] 00210-5-111302
[口座名義] バリアフリーを考える会

中田 光彦
代表理事「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人
宇野 峰雪
代表理事「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人
市村 平八
代表理事「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人
海老名 健太郎
代表理事「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人
小本 和孝
代表理事「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人
小木 節子「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表理事の一人

ら生き続けることができるのかということ。鎌倉においても、寝たきりの高齢の方、痴呆の方や知的に障害をお持ちの方、中でも日常介助が必要な高齢者、障害者、一人暮らしの方が、地震などの災害が起きたらどうなるかと、私自身が日常介助が必要なこともあり人ごととは思えず、心配な気持ちでいっぱいです。つまり、生存確認などができたとしても、あえて私のことを例にあげれば、私の場合は一人暮らしで、多くのヘルパーさんの手によって生活し、生きつづけています。地震などの災害が起きたら、そのヘルパーさんも被害者となり、ご自分自身の生活を守るのがやっとなるのではないかと思います。そのような時に、私自身の生活はどうなるのでしょうか。これは、私自身のみならず、特別養護老人ホームの方、グループホームの方、一人暮らしで介助者が必要な方は誰も思うのではないのでしょうか。

ヘルパーが来ることができない状況下で、自力で避難することが出来ない人、食事などの介助なしに生活することができない人の救出や、その後の生活の支援方法について、鎌倉市としてどのような対策を考えていられるかを、具体的に明確にお答えください。

3. 学童保育の重度障害児の公的介助のその後の経過について

この件については何年も前から質問をし続けているのですが、「いくつかの課題にまだがあるので、そのいくつかと協議をしてみたいですが、前例がないもので」ということで終わらされてしまっています。学童保育の重度障害児の介助者を公的に付けてほしいという声は根強くあります。そのようなことに対して鎌倉市としてはどう前向きな協議をされてきたのか、そしてどのように制度化していくのか、前進あるご答弁を具体的にお願いします。

